

米国航空機リース会社Aviation Capital Groupの 完全子会社化について（補足説明資料）

2019年9月9日



『金融×サービス×事業』の新領域へ。
東京センチュリー株式会社

目次

1. 本件買収の概要	3
2. Aviation Capital Groupの概要	4~5
3. 買収の戦略的意義	6
4. 民間航空機市場について	7
5. 当社の航空機ビジネスの全体像	8
6. 今後のスケジュール	9

本件買収の概要

買収対象	Aviation Capital Group LLC (ACG)
ストラクチャー (*1)	ACGの残り75.5%の持分を米国大手生命保険会社のPacific Life Insurance Companyより取得し完全子会社化 (当社100%米国子会社のTC Skyward Aviation U.S., Inc. 経由での取得)
取得価額 (*2)	現金対価で約3,000百万米ドル (3,213億円)
資金調達	財務健全性の維持に配慮した資金調達を行う方針 具体的には、持分取得時点では手元資金及びブリッジローンで調達後、 順次パーマネント調達に切り替える予定であり、 金融機関からの借入金のほか、ハイブリッドファイナンスによる 資本性資金の調達も検討
持分譲渡実行予定日	2019年12月 (各許認可の取得後)

(*1) 2017年12月に同社の持分20%を取得し、同社を持分法適用関連会社化。2019年3月には、増資を引き受け持分比率を24.5%に引き上げ。

(*2) 実際の取得価額は、クロージング時点での財務数値及び本持分譲渡契約所定の方法に基づいて調整される予定。

また、1米ドル=107.10円で換算して記載。

Aviation Capital Groupの概要 (1/2)

名称	Aviation Capital Group LLC (ACG)	
所在地	アメリカ合衆国・カリフォルニア州	
代表者	<p>Khanh T. Tran President and Chief Executive Officer</p> <p>→ 2016年1月に就任。 → 前職はPacific LifeにてCFO、President等を歴任。</p>	
事業内容	航空機リース事業	
設立年	1989年	
当社とACGとの関係 (*1)	<p>→ 2017年12月にACGの持分20%を取得、持分法適用関連会社とする。2019年3月に増資を引き受け、持分比率を24.5%に引き上げ。</p> <p>→ 当社より2名が取締役として就任。その他複数名をACGに派遣。</p> <p>→ 当社保有の航空機のアセットマネジメント業務をACGに委託。</p>	

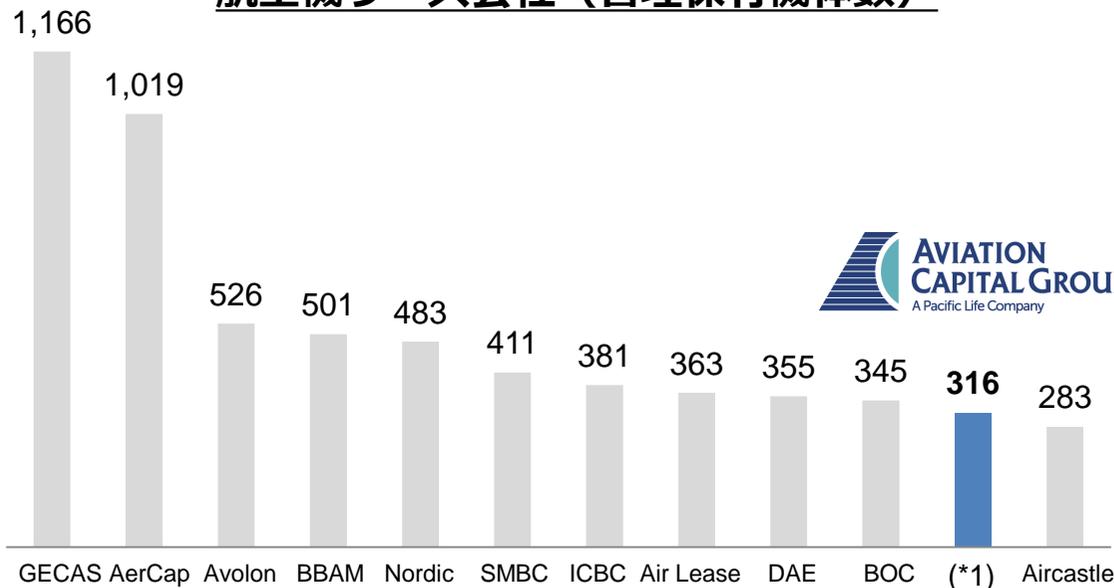
(*1) 2019年9月9日時点

Aviation Capital Groupの概要 (2/2)

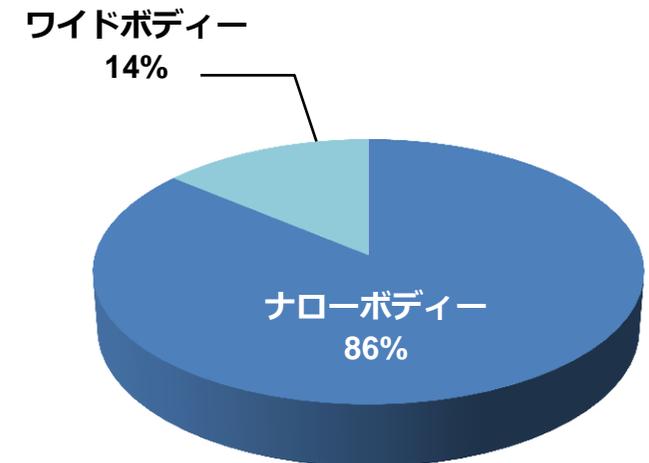
特徴

- 保有管理機体数ベースで世界で11位の規模。
- 流動性の高いナローボディ（単通路）航空機を中心に堅実な運営。
- マーケティング、テクニカル、アセットマネジメント機能等の航空機リース事業に必要な不可欠なフルプラットフォームを擁す。

航空機リース会社（管理保有機体数）



ACG管理保有機体の機種内訳(*2)



2019年6月30日時点

出典：FlightGlobal (Cirium)、ACG対外公表資料

(*1) 発注済およびコミット済みの165機を加えた合計は481機

(*2) 保有管理機体の簿価ベース

買収の戦略的意義

中長期的かつ安定的な持続的成長を早期に実現できる企業を目指す

戦略的好機

- 初回持分取得から約2年経過し、強固な信頼関係を構築するとともに、事業内容にも精通
- 世界有数の航空機リース会社を完全子会社化し、同事業へのコミットメントを強化する買収機会

一層の基盤強化

- 高い専門性を有するACGのプラットフォームを取り込むことによる競争力の向上
- 最も成長が期待される最注力分野のうちの1つである「航空機」分野の一層の事業の深掘りと基盤強化

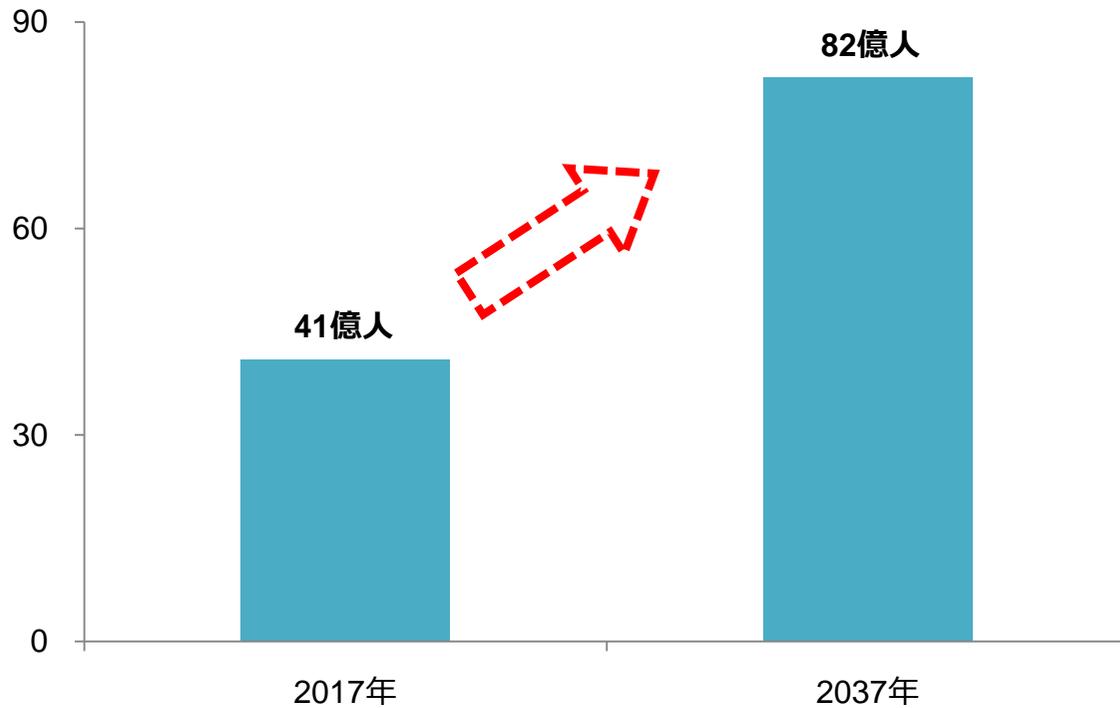
グループシナジー

- 従来以上に航空機オペレーティングリース事業に対する、より主体的な取り組みが可能に
- 航空機ファイナンス・アフターマーケット事業等との連携によるバリューチェーンへの対応の強化

民間航空機市場について

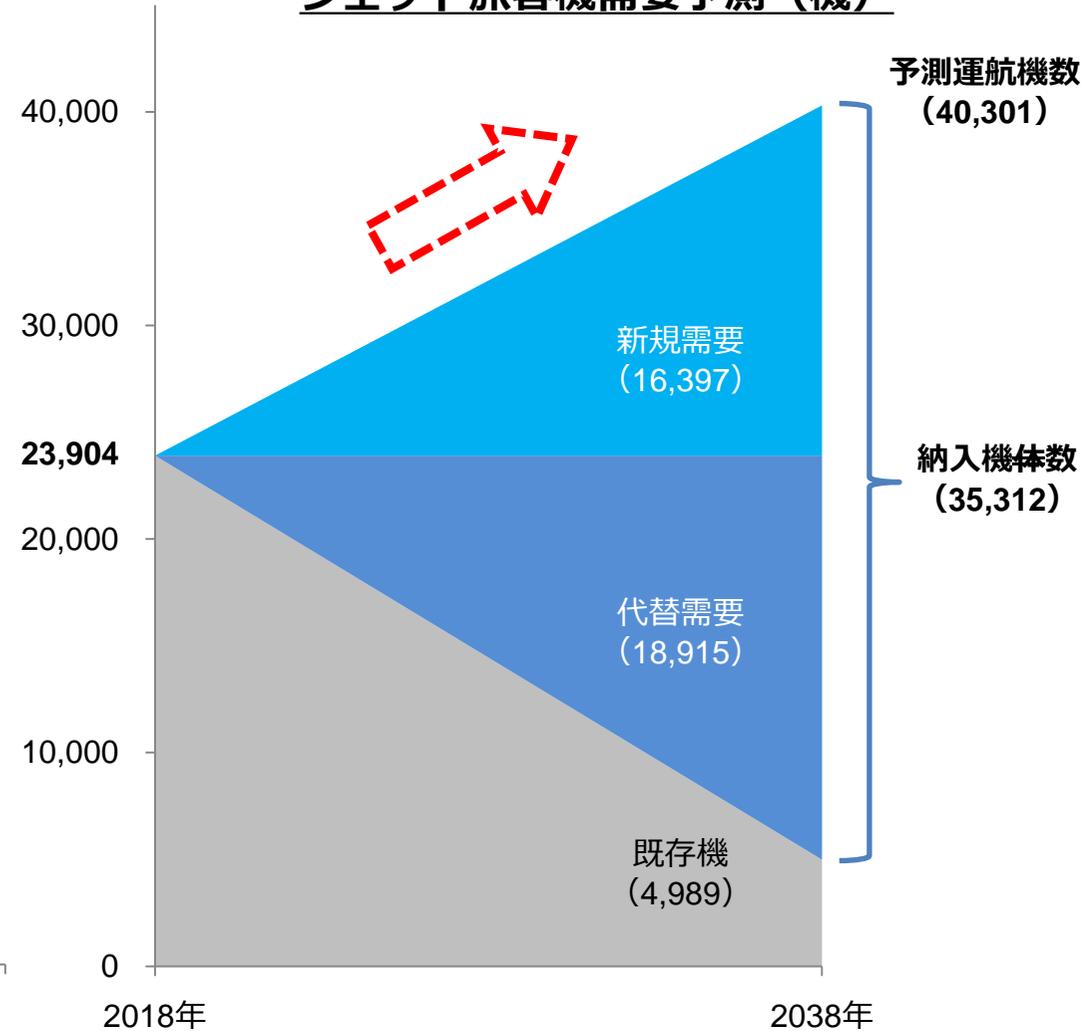
- 旅客数はアジア圏の旅客増加が寄与し、2037年には82億人に到達するとの試算。
- 旅客需要増加により、航空機需要も増加。2038年には2018年比で機体数も約倍増する見込み。

旅客数予測（億人）



出典：IATA（国際航空運送協会）

ジェット旅客機需要予測（機）



出典：一般財団法人 日本航空機関開発協会
「民間航空機に関する市場予測 2019 - 2038」

当社の航空機ビジネスの全体像

GA Telesis

- TCの持分法適用関連会社で49.2%を保有
- 米国を主要拠点とし世界各国で航空機部品・サービス事業を展開。中古機体、部品売却等の出口処理が強み

※MRO (Maintenance, Repair, Overhaul)
航空機関連機材の整備・リペア・点検



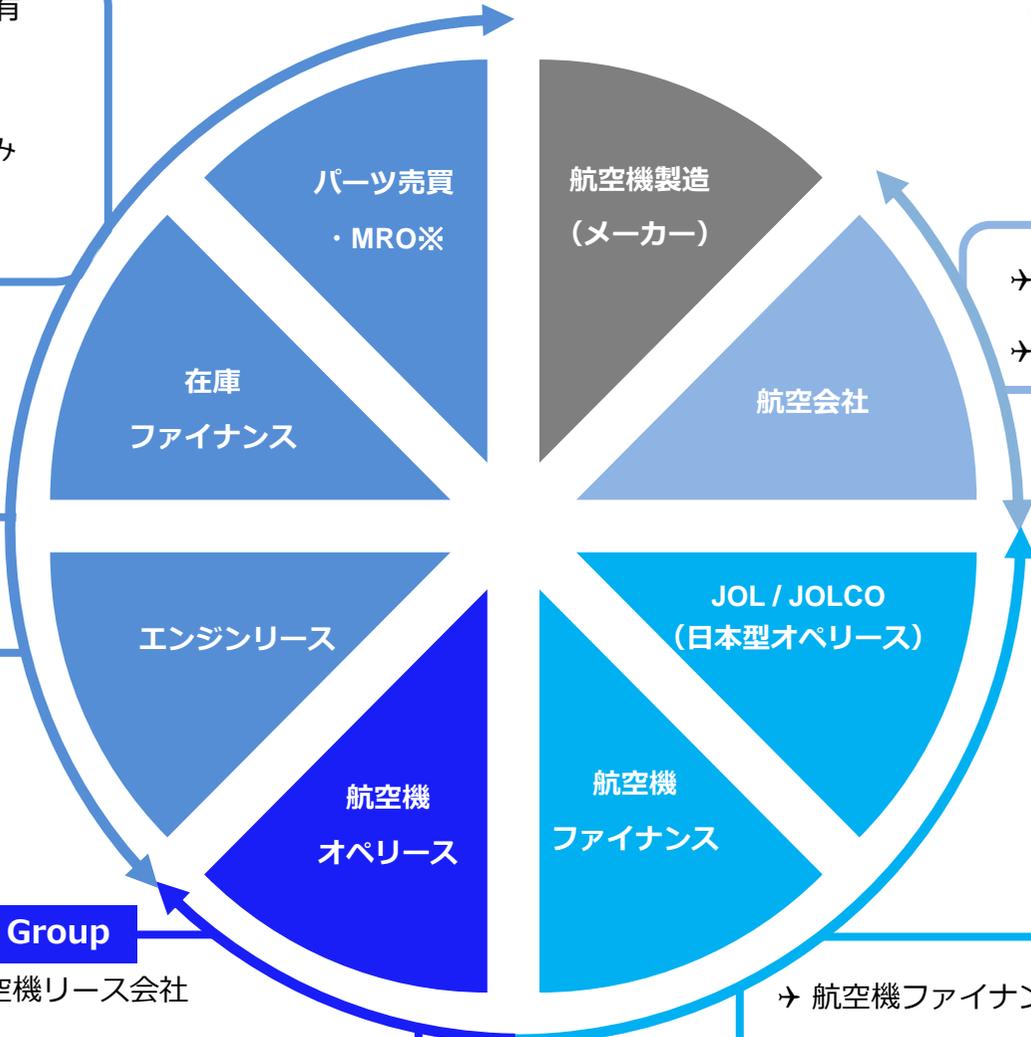
Gateway Engine Leasing

- GA Telesis 40%、全日空商事 40%、TC 20%出資のエンジンリース会社



Aviation Capital Group

- 今年で創立30周年となる米国の大手航空機リース会社
- マーケティング、テクニカル、アセットマネジメント機能等、航空機リース事業に必要不可欠なフルプラットフォームを擁する



Jetstar Japan

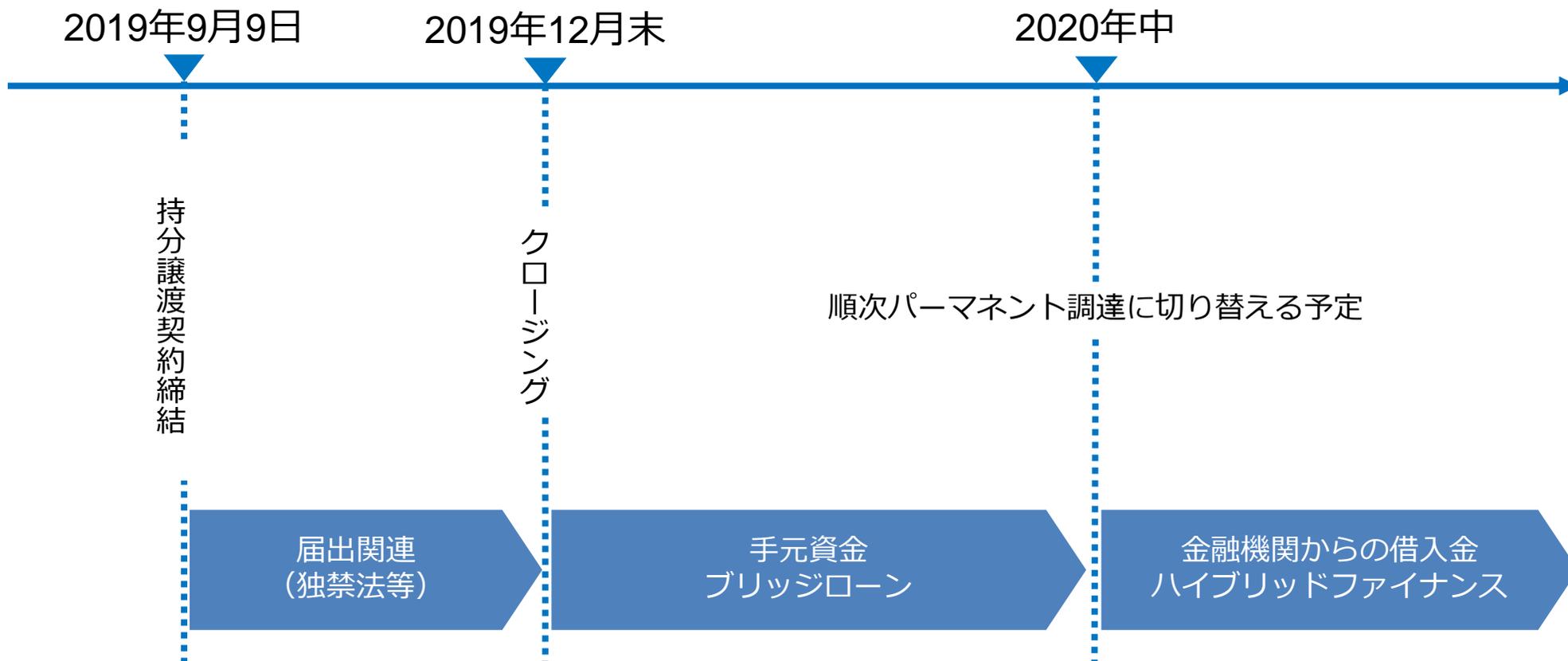
- 国内最大級のネットワークを誇るLCC
- TCは議決権の16.7%を保有



Tokyo Century

- 航空機ファイナンス
- JOL / JOLCO (日本型オペレーティングリース) 案件の組成

今後のスケジュール





(免責事項)

本資料には、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した将来予測数値が含まれていますが、実際の業績は様々な要因により変動することがありますのでご留意ください。

また、本資料は本資料作成時点の情報をもとに作成されたものであり、市場環境の変化、会計制度および税制の変更等によって影響を受けることがあることから、記載内容につきましては、変更または撤回させていただくこともございます。

本書における将来情報に関する記述は上記のとおり本書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

本資料に掲載している情報に関して、当社は細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。

お問い合わせ先



東京センチュリー株式会社

広報IR部

Tel : 03-5209-6710

HPアドレス : <http://www.tokyocentury.co.jp/jp/>